

E-23 住宅設計チェックリストに表れた施主の要求とその傾向
大阪市大生活科学 北浦かほる ○中村慶子

住宅チェックリストとは、既に土地を所有しており新築を志向している人を対象に、その設計に際しての資料を具体的に求めたものである。これから新築予定者の住宅像を明らかにして見る。このチェックリストに表れた主人の平均年齢は、44.2才、職業は70%が事務的職業に従事している。家族数は平均4.3人、二世帯家族及び親の同居とハウケースが多し。新築理由のうち半数は現在の住宅の狭小を掲げ、借家住いと転地の為かそれに続く。

住宅の規模は100~150㎡が半数以上を占め、主流は木造の二階建てとなっている。全体の1/4は、子供の成長や老人の同居を見越して子供室や老人室の増築も考えている。外観に対して具体的イメージを持っている人は25%で、何らかのイメージを持っている人と合せると74%となる。設計上重点を置く所としては、性能の面と住り方かとともに19%あるが、デザインは概かに7%しかたない。全体に木質を生かした住宅とハウコトが強調されている。設備について見ると、冷暖房ともほとんどが個別式で、暖房は電気・ガス・灯油による各室暖房が圧倒的である。冷暖房は暖房ほど各室に行きわたってはいないが、居間にクーラーをつける人が多い。給湯設備もほとんどの人が考えており、55%はセントラル方式を希望している。その方式はガスにするものが多いが、太陽電力の利用などの経済的側面からも考えられている。給湯場所は、台所・浴室・洗面所の3ヶ所が多い。住宅内の各室に許す考え方は、居間では73%が洋間を希望し、そのほとんどが接客室を兼用させるとしている。夫婦寝室は、洋室より和室志向の方がかかり上回っている。しかし寝室と、浴室や書斎との兼用はほとんど考えられてはいない。